

【ミャンマー】 民政移管後初の総選挙で野党大勝

海外立法情報課 光成 歩

* 2015年11月8日に民政移管以降初めての総選挙が行われ、アウンサンスーチー氏率いる国民民主連盟が全議席の8割近くを確保する結果となった。

1 はじめに

2011年3月の民政移管以降、今回が初めての総選挙となる。2010年総選挙では、アウンサンスーチー氏の出馬が阻まれたことから、国民民主連盟（National League for Democracy: NLD）は選挙をボイコットし、現与党の連邦団結発展党（Union Solidarity and Development Party: USDP）が全議席の約8割を獲得した。しかし、2012年の補欠選挙ではNLDが45議席中43議席を獲得する圧勝を収めていた。このため、今回総選挙ではNLDの大勝が予測されており、NLDが単独で連邦議会議席の過半数を確保できるかが注目されていた。

2 総選挙までの動向

(1) 総選挙の制度的枠組み

2008年憲法の規定によると国政レベルの連邦議会（Pyidaungsu Hluttaw）は、下院（Pyithu Hluttaw）440議席及び上院（Amyotha Hluttaw）224議席からなり、両院の議席の4分の1（下院110議席、上院56議席）は国軍最高司令官が指名する軍人議員に割り当てられている。これを除いた下院330議席及び上院168議席が選挙で争われる。下院は全国330の郡（Township）ごとに1議席ずつを争う小選挙区制である。上院は7つの管区（Region）と7つの州（State）に各12議席が当てられており、下院とは異なった選挙区割りとなされる。管区・州の地方議会（一院制）選挙では、連邦直轄地ネーピードーの8郡を除く322郡について各2議席ずつに加え、管区・州ごとに設けられる少数民族議席（注1）も争われる。以上の上下院及び地方議会の全議席の任期は5年で、解散はない。なお、地方議会でも、国軍最高司令官の任命による軍人議席枠が、各管区・州議会の4分の1を占める。

2015年の総選挙では、内戦を理由としてシャン州の7郡で選挙が中止されたため、下院323議席、上院168議席、地方議会659議席の合計1,150議席が争われた（注2）。

(2) 選挙までの経緯

各政党から選挙管理委員会への立候補者名簿の提出は8月14日に締め切られた。その後、選挙管理委員会による不適格者の除名などを経て、最終的に91政党から6,040人の立候補者が出馬した。選挙戦は投票日2か月前の9月から開始された。全国的基盤を有するNLDとUSDPの対決が焦点だったが、両者の間での政策論争はほとんどなされなかった。NLDはアウンサンスーチー氏の絶大な人気を背景に「Change」のスローガンを掲げて軍政からの脱却と変革を訴えた。これに対し、USDPは民政移管以降の経済発展や安定を実績として強調した。USDP内部では、連邦議会議長でもあり、アウンサンスーチー氏との協力を模索していたとされるシュエマン党議長代行が立候補者名簿の提出締切り直前に突如

として党役職から解任され、テインセイン大統領のもとに党内団結が図られた。

他方、有権者名簿には登録漏れや非居住者の登録などの混乱が見られた。また、国内外の1千人以上からなる大規模な選挙監視団が組織された。

3 選挙結果の概要

表 連邦議会及び地方議会における政党別獲得議席数（注3）

	上院	下院	連邦議会		管区	州	地方議会	
国民民主連盟(NLD)	135	255	390	59.4%	383	113	496	56.3%
連邦団結発展党(USDP)	11	30	41	6.2%	21	55	76	8.6%
アラカン民族党(ANP)	10	12	22	3.3%	1	22	23	2.6%
シャン民族民主連盟(SNLD)	3	12	15	2.3%	0	25	25	2.8%
その他	9	14	23	3.5%	3	36	39	4.4%
軍人議席	56	110	166	25.3%	136	86	222	25.2%
合計	224	433	657	100.0%	408	251	881	100.0%

国政選挙と地方選の双方において、NLDが地滑り的な勝利を収めた。NLDは連邦議会でも上下院合わせて過半数を超える390議席を得たことで、単独で大統領選出及び憲法改正を除く法制定を行うことが可能となった。USDPはシュエマン連邦議会議長や現職大臣などの有力候補者も多くが落選した。少数民族地域でも多くの州でNLDが民選議席の3分の2以上を確保したが、シャン州とラカイン州では例外的に少数民族政党が健闘した。シャン州では、シャン民族民主連盟がNLDやUSDPと拮抗し、その他の少数民族諸政党も小規模ながら一定の議席を確保した。ラカイン州ではアラカン民族党が全体の約7割（上院8割、下院7割、州議会6割）を占めて他党を圧倒した。

4 選挙後の動き

与党及び国軍はNLD圧勝という選挙結果を受け入れる姿勢を表明した。12月初めにはアウンサンスーチー氏とテインセイン大統領、ミンアウンフライン国軍最高司令官及び前軍事政権のトップであったタンシュエ氏との会談が相次いで実現し、NLDへの円滑な政権移譲が印象づけられた。

注（インターネット情報は2015年12月14日現在である。）

- (1) 当該の管区・州内にミャンマー全人口の0.1%（約5万人）以上の人口が居住する民族に1議席ずつ与えられる。ただし、管区においてはビルマ族、各州では州名となっている民族を除く。ミャンマーにおいて多数派のビルマ族も、いくつかの州では少数民族議席の配分を受ける。
- (2) 英語紙ミャンマー・タイムズ（電子版）の選挙特設サイト<<http://www.mmtimes.com/index.php/election-2015/live-blog.html>>より。以降の選挙関係動向も同サイト参照。
- (3) “The fighting peacock spreads its tail: Final results graphics,” *Myanmar Times*, 2015.11.24; “Ballot recount in Shan State sends USDP seat to ethnic party,” *Myanmar Times*, 2015.11.25.